

研究分野	海洋構造・資源評価	部名	漁場環境部
研究課題名	資源評価調査委託事業のうち沖合定線観測、浮魚資源調査		
予算区分	漁業調整費（国委託）		
試験研究実施年度・研究期間	H.12～H.16		
担当	蝦名 浩、清藤 真樹		
協力・分担関係	東北区水産研究所、日本海区水産研究所、漁業情報サービスセンター		

〈目的〉

沖合域の海況に関する情報を収集・分析、浮魚類の資源状況を把握のため漁獲情報を収集し、海況予報等の資料とするほか、水産資源の安定のための基礎資料を得る。

〈試験研究方法〉

青森県の日本海沖合定線観測（年4回）、太平洋沖合定線観測（年4回）において、CTDにより、0m～1000mの水温・塩分を観測する。ノルパックネットにより0m～150mの鉛直曳きを行い、卵稚仔、プランクトンを採集する。ニスキン採水器により0m～150mで採水し、クロロフィルの分析を行う。

また、浮魚類の漁獲情報の集計及び魚体精密測定を行う。

〈結果の概要・要約〉

得られた水温、塩分データは fresco システムによりデータ送信を行った。採取した卵稚仔、プランクトン試料は、分析業務を実施する関係機関へ送付した。各調査結果により日本海における対馬暖流勢力及び太平洋における津軽暖流勢力をウオダス等に掲載した。

また、浮魚類の漁獲情報の集計結果を fresco システムによりデータ送信を行った。スルメイカ、イワシ類、アジ・サバ類の魚体精密測定を行い、測定結果を独立行政法人水産総合研究センターに送付した。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定線海洋観測(日本海)			◎			◎			◎			◎	4回
定線海洋観測(太平洋)			◎			◎			◎			◎	4回
卵稚仔・プランクトン採集(日本海)	20	20	20									20	80地点
卵稚仔・プランクトン採集(太平洋)			12			12			12			12	48地点
クロロフィルa(太平洋)			13			13			13			13	52地点
スルメイカ精密測定			○	○	○	○	○						5ヶ月
浮魚精密測定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	周年

〈主要成果の具体的なデータ〉

○日本海

- ・6月は表層が高め、50m層がやや低め。9月は表層、50m層が低め、100m層が高め。12月は表層、50m層とも高め。3月が各層とも平年並。
- ・対馬暖流の流幅は6月が広め、9月が広めの傾向、12月が平年並、3月が狭め。
- ・北上流量は、6月が平年並、9月がかなり多め、12月が少なめ、3月が平年並。
- ・対馬暖流の勢力は、6月がかなり強め、9月がかなり強め、12月がやや弱め、3月がやや弱め。

○太平洋

- ・6月は各層低め。9月は50m層、100層が低め。12月は各層高め。3月は各層高め。表層、50m層とも高め。3月が各層とも平年並。

・水塊深度は6月がやや浅め、8月平年並、12月平年並、3月平年並。

〈今後の問題点〉

青森県の日本海及び太平洋の沖合定線観測では、1000mまでの水温・塩分を観測する。一方、CTD、CTD ケーブル等が劣化しているものの、機器の更新が容易に実施できないことから、今後、データ収集が困難になることが予想される。

また、調査対象で浮魚類のうち、イワシ類、アジ・サバ類は漁獲量が少なく、魚体測定が計画的に実施されていない。また、データ蓄積が少ないためあまり活用されていない。

〈次年度の具体的計画〉

定期海洋観測により漁況情報を収集・分析し、その結果を fresco システムにより送信する。各調査結果により日本海の対馬暖流勢力及び太平洋の津軽暖流勢力等の海況情報をウオダス等により水産関係機関、漁業者に情報を提供する。

また、浮魚類の漁獲情報の収集及び精密魚体測定を実施し、データの蓄積を図る。

〈結果の発表・活用状況等〉

報告：平成 15 年度漁況海況予報関係事業結果報告書

：平成 15 年定線観測結果表